

みちのく 漁船かわら版

特別号

平成29年1月

平成28年11月22日発生

福島県沖地震・津波による船舶被害

11月22日宮城県漁協組合員により撮影された大浜漁港(引き波時)



第二管区海上保安本部 海の安全推進室

宮城県塩釜市貞山通3-4-1

(代表) 022-363-0111

(直通) 022-365-9609

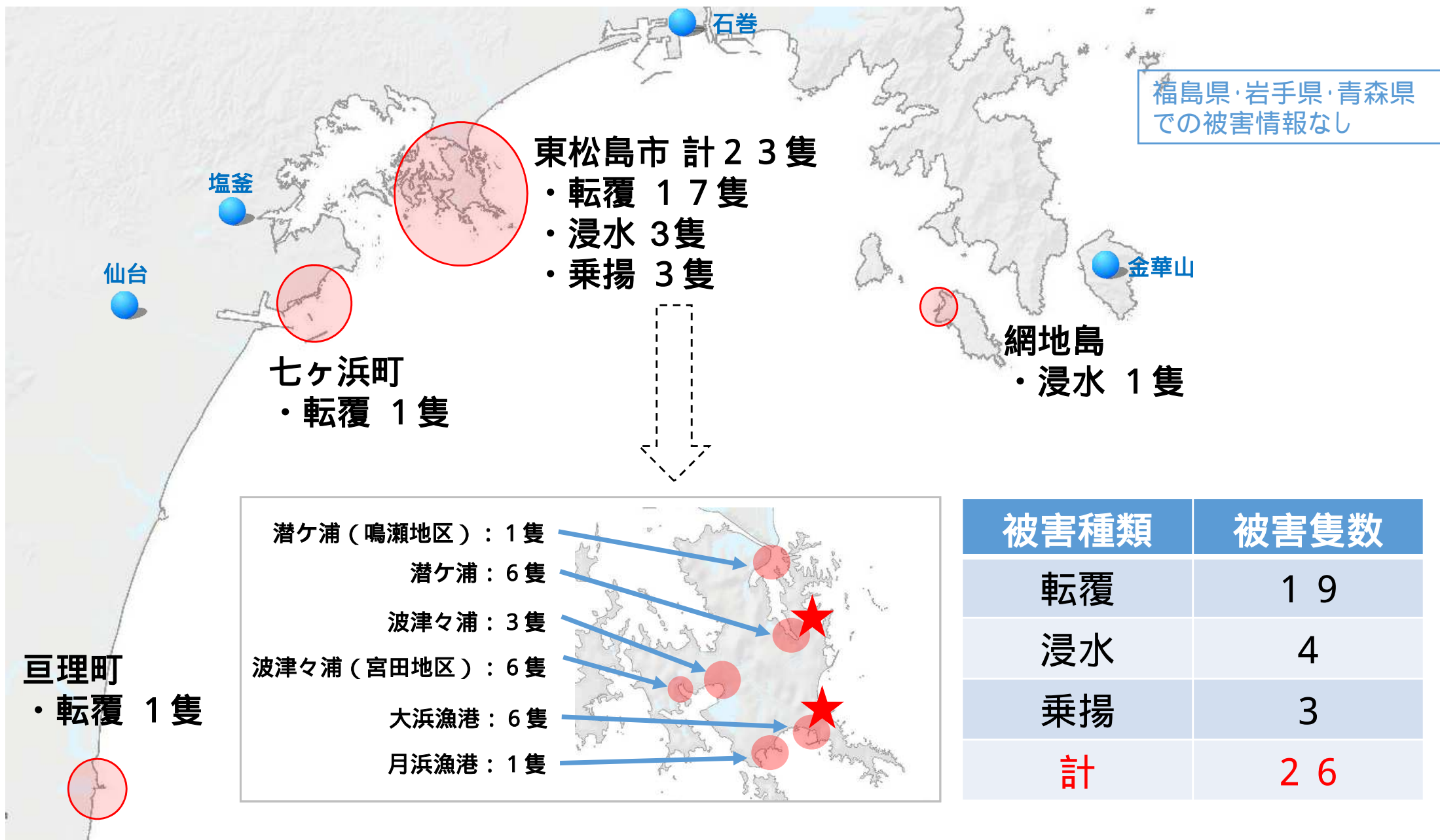


漁船かわら版

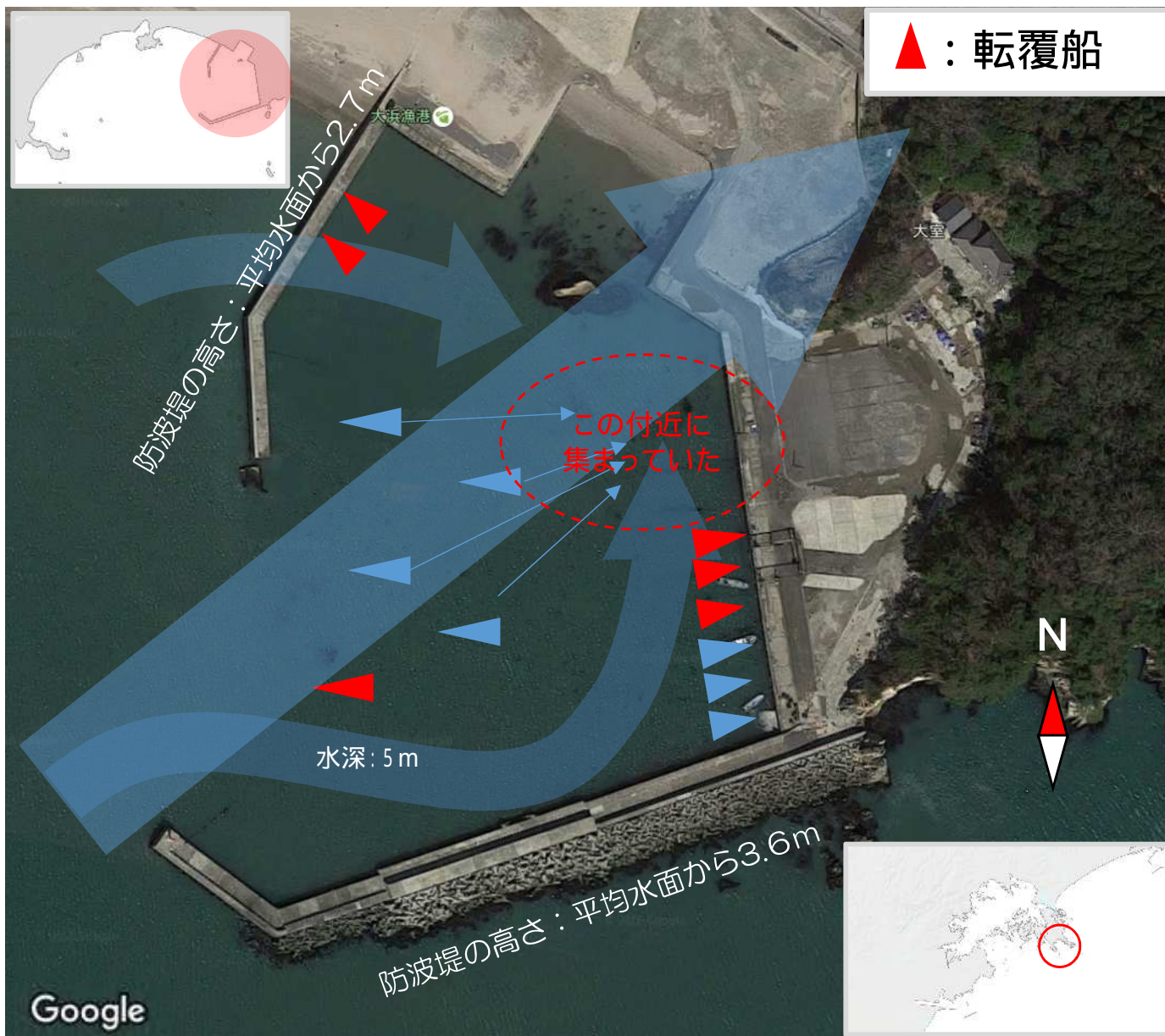
検索

みちのく漁船かわら版URL>>> <http://www.kaiho.mlit.go.jp/02kanku/kawaraban/index.html>

船舶被害発生位置 (仙台湾・石巻湾で26隻が被害を受けた)



大浜漁港の船舶被害状況

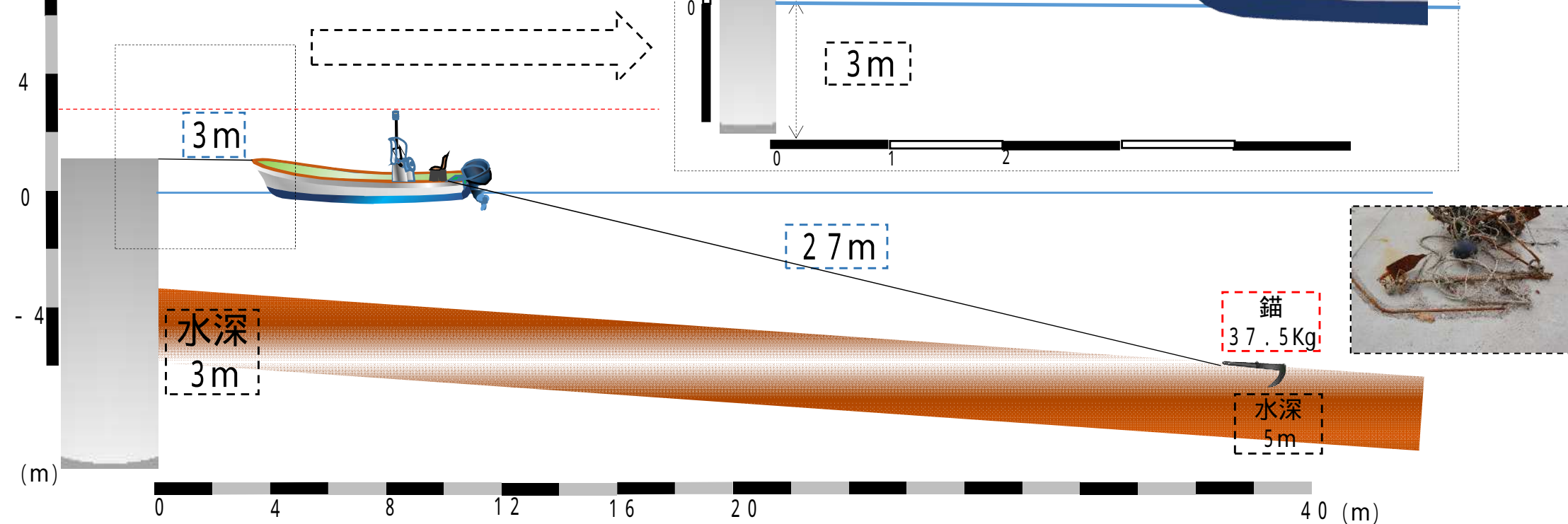
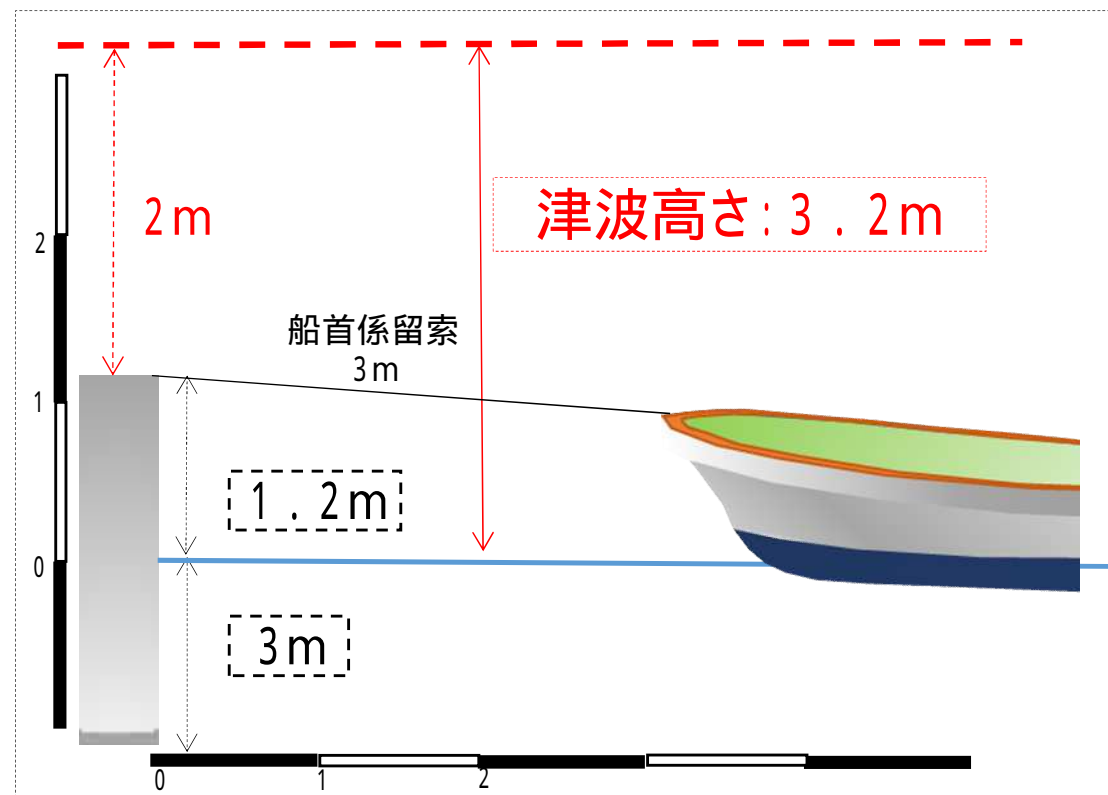


【地元漁業者からの聞き取り】

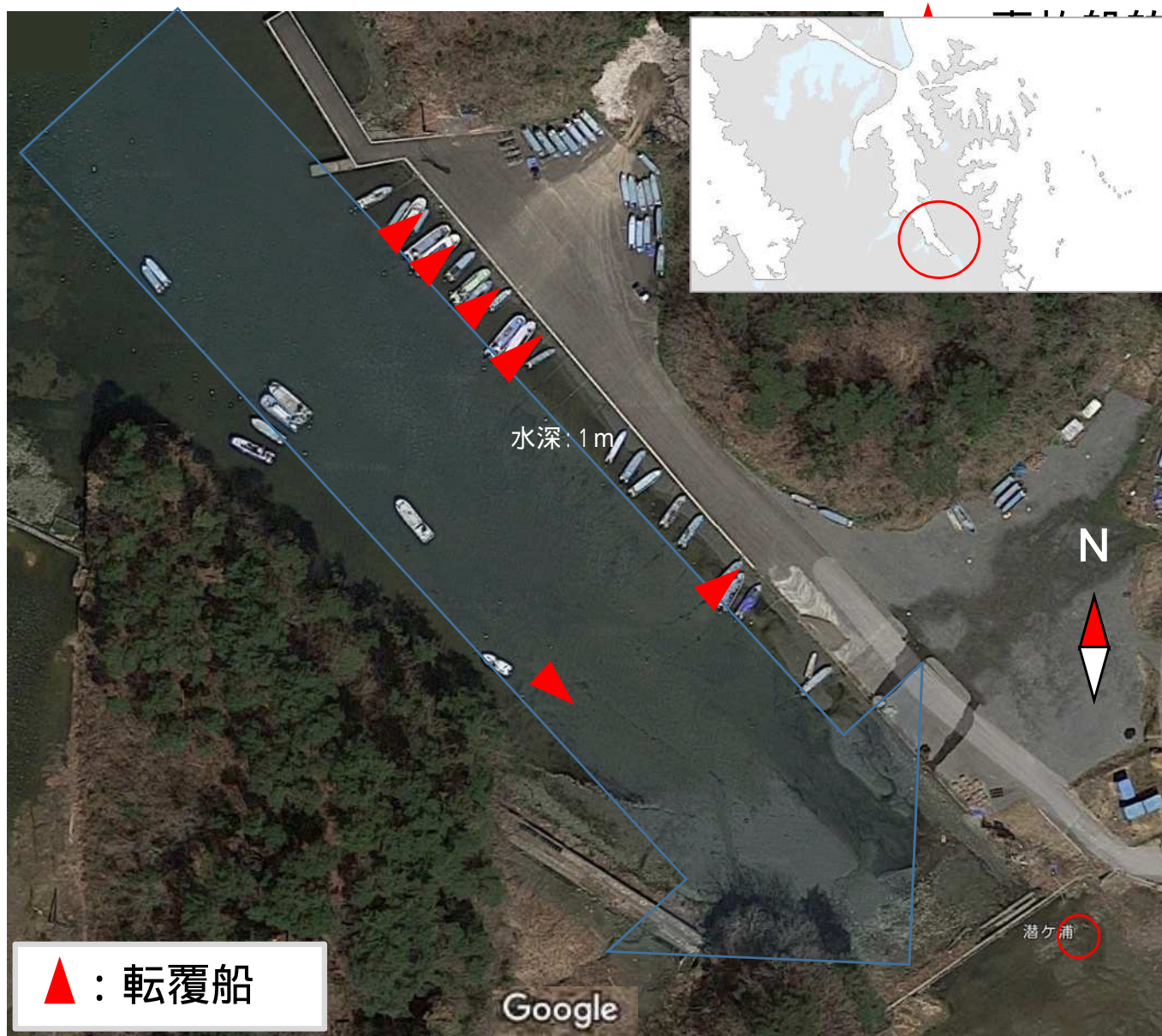
- 津波は津波警報発令前の午前8時ごろ到達していた。
- 津波は西側港口及び西側防波堤（2.7m）を乗り越えて入ってきた。
- 南側防波堤（3.6m）は超えなかった。
- 走錨船の錨は港内の北東側に集まっていた。
- 岸壁上に置かれていた1m³のコンクリートブロック（約2.3t）が移動していた
- 被害船舶は、全て1トン未満の船外機船である。（長さ5～7m）
- 漁港南東側に係留していた3隻は被害、移動等無し。
- **転覆船は係留索を強く張っていた。**

3mを超える強い津波が来襲したものと推定される。

大浜漁港の主な係留状況



かつぎがうら 室浜漁港（潜ヶ浦区）の船舶被害状況

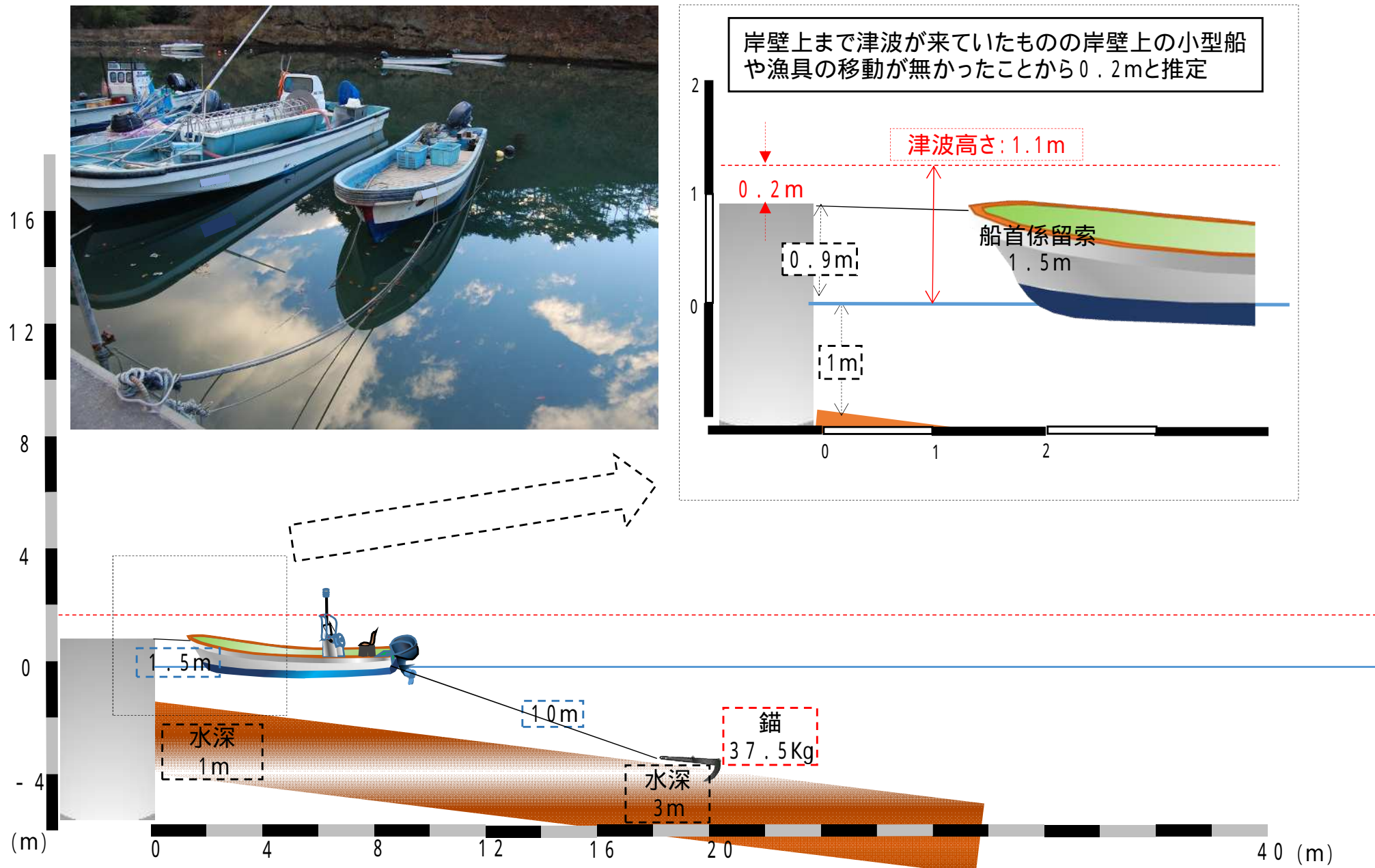


【地元漁業者からの聞き取り】

- 津波警報が発令され漁港を見に来た時には津波は岸壁上まで来ていた。
- 岸壁上に揚げていた小型船や漁具の移動はなかった。
- 被害船舶は、全て1トン未満の船外機船である。（長さ5～7m）
- 約20隻の小型船が係留していたが被害にあったのは6隻である。
- **転覆船は係留索を強く張っていた。**
- 他の小型船は走錨も含め被害はなかった。

1m超の流れの弱い津波(水面上昇)が来襲したものと推定される。

室浜漁港（潜ヶ浦地区）の主な係留状況



【考察】係留ロープの長さ と 転覆

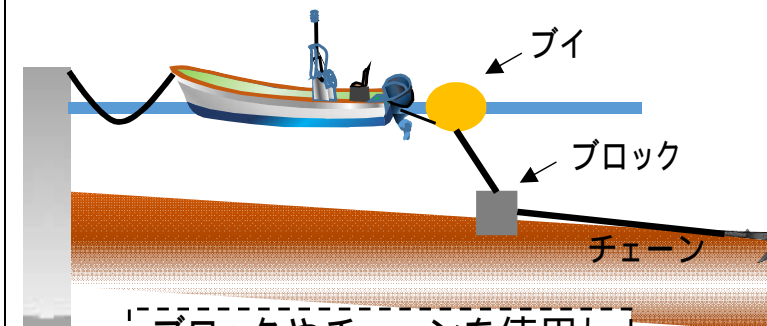
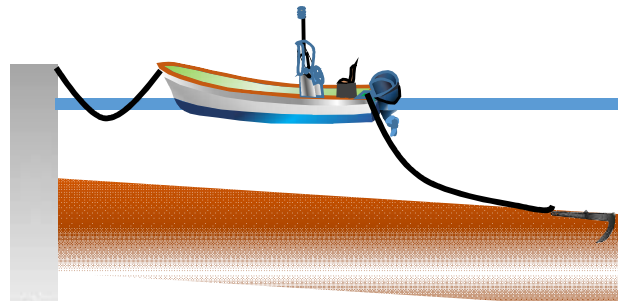
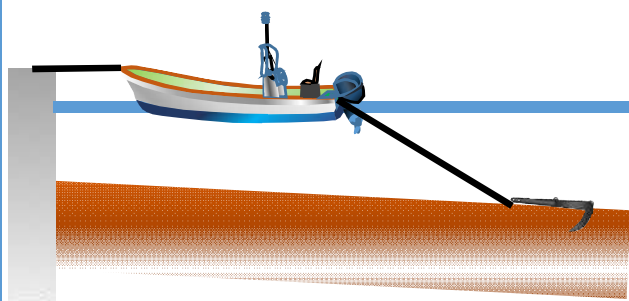
転覆船はロープを強く張っていた

ロープに余裕がない係留

ロープに余裕がある係留

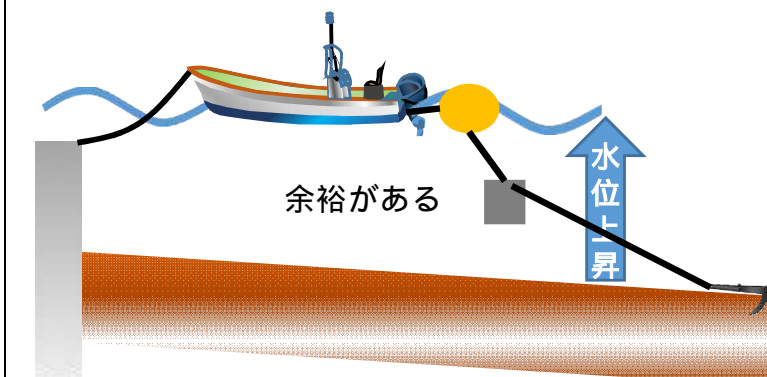
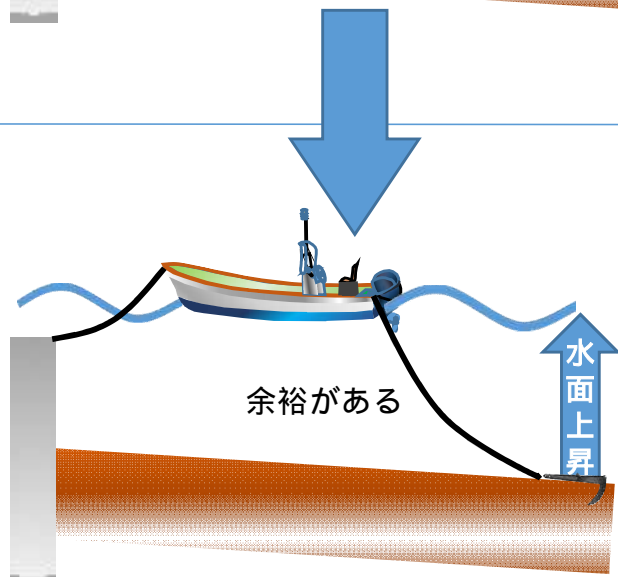
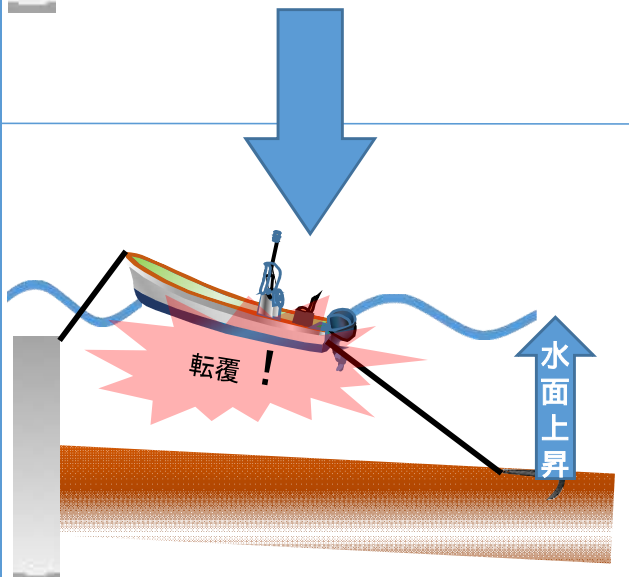
考 察

通常時



ブロックやチェーンを使用し、その重みで余裕を作る

津波発生時
(水面上昇)



問題等

水面上昇で転覆のおそれがある

通常時において風浪による船体動揺が大きい
横の船と間隔を広くする必要がある

ブロックやチェーンを使用することにより風浪による船体動揺が小さくなる
また、ブロックやチェーンの重みで船を沖側に引き出すことが出来る

地震・津波 避難行動マニュアル(漁船編)
《平素からの心がけ》

参考

1級、2級船(大型、中型船)

- ・沖だし避難を考え、自宅から係留地・湾口・避難海域までの所要時間・距離を把握しておく
- ・多数乗船の1級船、2級船において、参集基準・運航最小人員など出港時の取決めと、船長不在時の判断者を決めておく
- ・地元船以外の船舶は、乗遅れ者が避難する最寄の避難場所・避難ルートを決め周知しておく
- ・3日分の食料・水・常備薬等を持ち出せるように準備しておく
- ・ラジオ等情報入手手段を準備しておく
- ・家族等との連絡手段の確保、家族の避難場所を決めておく

3級船(小型船)

- ・普段操業海域から係留地・陸上避難場所までの所要時間・距離を把握しておく
- ・係留地までの避難時間がない場合の入港場所・陸上避難場所(近隣漁港)の所要時間を把握しておく
- ・普段操業海域から、近くの砂浜・磯場(陸上乘揚げ場所)から高台(山)等への山道を把握しておく
- ・予め決めた避難場所を家族に知らせておく
- ・家族との連絡手段の確保、家族の避難場所を決めておく

